

■ 地方創生推進交付金事業平成 30 年度実績及び紀北町地方創生会議委員の意見

■地方創生推進交付金事業 平成 30 年度実績、KPI 達成状況及び紀北町地方創生会議委員の意見

【単独事業分】

No.	事業名	実績額（円）	事業概要	KPI （重要業績評価指標）	目標 年月	実績	達成 状況	今後の 取組方針	紀北町地方創生会議 委員の意見
1	地域商社/DMO 設立に向けた「紀北もん」ブランド推進事業 所管：商工観光課	1,725,000 (交付金充当額) 862,500	<p>紀北町の特徴ある高品質な地域食材の多くは、季節商品であること、収量が少ない、適切な価格が見つからないこと等から、ほとんどが町内で消費され、域外へは流通していないのが現状です。これを域外の市場に付加価値をつけて流通させていくことが、町内の経済の活性化に繋がります。</p> <p>しかしながら、地域産品の市場はいずれをとっても供給過多であり、地域の特性が理解されなままに一律に取り扱われています。それを脱するためには地域の特性を理解してくれている中規模の市場を自ら新たに創造する必要があることが指摘されています。</p> <p>そのために平成 30 年度を目途に「紀北町版地域商社」の設立を目指します。「新たな市場の創造」こそが、地域の個社単体では実現できないことであり、地域商社という事業価値と社会価値の双方を最大化することを目指す事業体こそが担うべき役割です。地域商社事業の推進主体は、地域資源の販路開拓の司令塔として、東名阪などの消費地のみならず、海外市場も視野に入れ、有望な地域資源の生産者や事業者と連携しながら高付加価値商材を展開、その収益を地域や生産者に還元していきます。そのことを通じて、町内に新たな経済と雇用を生み出すことを目指します。</p>	<p>KPI① 地域商社/DMO の設立に伴う水産卸売業の紀北もん付加価値額（RESAS データの活用・営業利益+人件費+減価償却費）の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値 5,000 千円 H29 増加分 0 千円 ⇒ H30 増加分 100,000 千円 R1 増加分 20,000 千円 <p>KPI② 地域商社/DMO の設立に伴う農業・林業・宿泊業の紀北もん付加価値額の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値 0 千円 H29 増加分 0 千円 ⇒ H30 増加分 20,000 千円 R1 増加分 40,000 千円 <p>KPI③ 地域商社/DMO の設立に伴う新規雇用の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値 0 人 H29 増加分 0 人 ⇒ H30 増加分 4 人 R1 増加分 1 人 	R2.3	<p>【実施内容】 「紀北もん」町内環境整備事業 紀北町ブランド推進協議会の運営</p> <p>①幹事会の開催（6月、8月） ・H29 年度実績及び H30 年度予定 ・ワーキンググループ会議の報告</p> <p>②ワーキンググループ会議の開催（7月、8月、9月、12月、2月の計5回開催） ・商品発掘、専門家の招聘、商品の募集</p> <p>③商品開発（12月～2月） ・商品募集（募集チラシの配布） ・参画業者へのヒアリング</p> <p>④マーケティング調査（3月） ⑤来年度以降、商談会参加を見据え日本最大級の食の商談会「FOODEX」への視察（3月）</p> <p>⑥その他 三重 TL0 への訪問（8月） ・ブランド化に向けての相談 ・有識者としての協議会への参画の打診 南伊勢町へ南伊勢ブランドの内容についての聴き取りの実施（10月）</p> <p>【KPI 実績】 地域商社未設立のため、KPI の実績は無し</p>	—	H30 年度は KPI の実績はなく、未記載とする。	<p>地域商社を設立する諸条件が整ってから、紀北もんの商品化や販売に動くのではなく、デザイン・ラベル自体ができているので、認定基準さえ決まれば、地域商社ありきではなく、ラベルを貼って、商品化するなど、前に進めた方が良いと思う。</p> <p>始神テラスや道の駅などで、紀北もんのデザインの商品があれば、手に取る人も多いと思う。人口 2 万人であれば、2 万人×365 日×3 食と算段ができる。これだけの実需があれば、農産物等が一番コストがかからない状態で地域に売りだすことができる。</p> <p>そういった地域へ提供する仕組みを考えてもいいのではないかと。この事業で得た、チャンスを活かしてほしい。</p>

【連携事業分】

No.	事業名	実績額 (円)	事業概要	KPI (重要業績評価指 標)	目標 年月	実績	達成 状況	今後の取組方針	紀北町地方創生会議 委員の意見
2	子育てしたい・しやすいまちづくりによる移住促進事業 連携市町： 5市町 (尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町、紀北町) 所管： 生涯学習課、福祉保健課、企画課	12,950,406 (交付金充当額) 6,475,203	豊かな自然と伝統・文化に恵まれた環境の中で、幼少期からの食育の推進や健康増進、保育所と地域とのふれあい事業等、特色のある子育て環境に向けての取組みを進めます。 加えて、子どもの居場所づくりや優れた芸術や文化に触れる機会の提供、体力増進のためのスポーツ講座の充実を図り、子育て世代の都市部移住希望者に情報発信をすることにより、当地域への移住の促進を図ります。 ①子どもの健康増進事業 ②ふれあい体験事業 ③子どもの居場所づくり事業 ④子ども向け自主文化事業 ⑤都市部におけるPR活動等	KPI① 移住に係る行政窓口(空き家の情報提供や移住体験などを担当する各市町の定住移住関連担当窓口)を活用した東紀州地域への移住者数 ・現状値 6人 H29 目標値 7人 ⇒ H30 目標値 7人 R1 目標値 8人 KPI② 移住相談会への参加回数 ・現状値 1回 H29 目標値 4回 ⇒ H30 目標値 4回 R1 目標値 4回 KPI③ 子育て支援施設の利用人数 ・現状値 228人 H29 目標値 230人 ⇒ H30 目標値 230人 R1 目標値 230人	R2.3	【実施内容】 〈ソフト事業〉 ①子どもの健康増進事業 (1) 講演会等委託料 ・子育て、スポーツ講演会 (2) スポーツ大会・教室等報償費 ・ユニカール大会、離乳食教室、フッ素塗布事業等の実施 ②ふれあい体験事業 (1) 読み聞かせボランティアの実施 ・児童図書の購入 (2) 地域と園児のふれあい事業補助金 ・民間保育所が行う地域と園児との交流事業への補助 ④子ども向け自主文化事業 (1) アカペラコンサート・サクソコンサートの実施 ⑤都市部におけるPR活動等 〈ハード事業〉 ⑥子どもの居場所づくり事業 (1) 児童公園への遊具設置 ・遊具4ヶ所、滑り台1ヶ所 【KPI 実績】 ・KPI① 6人(×) ・KPI② 11回(O) ・KPI③ 109人(×)	△	KPI①については、都市部での移住相談会に加え、紀北町出身者で構成している東京会等の会合等でのPRを検討します。 KPI③については未就学児の保育利用者が増加してきているのが理由と考えられ、引き続き幼稚園や保育園を利用していない子育て支援施設を利用できるよう、きほくファミラボ(WEBサイト)等により周知を図る。	①子どもの数が激減してきて不安を感じる。子どもがスポーツチームに入っているが、チーム編成が難しくなっている。町外のチームと交流をもって一緒に練習をさせてもらっており、紀北町の魅力を知ってもらって、また、町外からの刺激を受けて、成長をしてもらいたいと思う。 ②紀北町の中学生は、地元に住みたい、町外に出ても将来は戻ってきたいと思っているが、実際はなかなか帰ってきていない状況。紀北町には、働ける場所自体は多いので、今後は、地域の企業や働き方の魅力を上げるといふ必要があるのではないかと思う。

【連携事業分】

No.	事業名	実績額 (円)	事業概要	K P I (重要業績評価指標)	目標 年月	実 績	達成 状況	今後の取組方針	紀北町地方創生会議 委員の意見
3	<p>「世界遺産」「地域産業」を活用した観光DMO推進事業</p> <p>連携：県・5市町 (三重県、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町、紀北町)</p> <p>実施主体：東紀州地域振興公社</p> <p>所管：商工観光課、企画課</p>	<p>2,754,000</p> <p>(交付金充当額)</p> <p>1,377,000</p>	<p>自然豊かな観光資源が豊富な魅力ある東紀州地域へ、国内はもとより外国人観光客を誘客し、特産品の購買等この地域での消費のしくみを構築推進するため、共通のコンセプトのもと観光客のニーズ分析に基づいたマーケティングと地域の関係団体との連携を担うDMOの立ち上げを目指します。合わせて、DMOにより企画販売した商品等の受け皿を5市町が担って行くことを目指していきます。そして、その目的のために、訪日外国人旅行者向けの母国での情報発信、訪日外国人旅行者に受入れ環境整備や、東紀州5市町三重県官民協同による海外セールスを積極的に行い、この地域への誘客に繋げていきます。</p>	<p>KPI① 東紀州地域における観光消費額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値 46,423 百万円 H29 増加分 100 百万円 ⇒ H30 増加分 100 百万円 R1 増加分 100 百万円 <p>KPI② 地域別観光入込客数(千人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値 1,811 千人 H29 増加分 39 千人 ⇒ H30 増加分 40 千人 R1 増加分 50 千人 <p>KPI③ 伊勢志摩・東紀州立ち寄り率・伊勢志摩→東紀州</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状値 5.1% H29 増加分 0.11% ⇒ H30 増加分 0.10% R1 増加分 0.20% 	R2.3	<p>【実施内容】</p> <p>観光DMO設立に向けた専門的な人材育成、データ収集分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ①観光DMO勉強会開催(8月～2月・計4回) ②外国人観光客アンケート調査 ③熊野古道アクセスガイドブックの改訂・増刷、配布 ・日本語版3,000部、英語版3,000部 (配布先)県内自治体、観光協会、和歌山県内観光協会、中部国際空港 <p>訪日外国人旅行者向け情報発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①台湾現地ウェブサイトでの記事配信 ②東紀州ファムツアーの実施(7/26～29) ・台湾ランタン国際発展協会から4名 ③東紀州モニターツアーの実施(9/24～27、9/29～10/1) ・ブロガー、台湾人漫画家、モデルの招聘 ④東紀州5市町県官民協同の海外セールス ・オール関西台湾大商談会(9/4～8) ・三重県、東紀州5市町による台湾協同セールスの実施(11/14～17) ・東紀州観光説明会の実施(台北市) <p>【KPI実績】</p> <p>KPI① <u>+4,941 百万円 (○)</u> (54,712 百万円→59,653 百万円)</p> <p>KPI② <u>+219 千人 (○)</u> (2,096 千人→2,315 千人)</p> <p>KPI③ <u>△1.6% (×)</u> (5.9%→4.3%)</p>	△	<p>国内観光市場が縮小しつつある状況であるが、伊勢志摩サミット開催により知名度を増した三重県のネームバリュー及び熊野古道世界遺産登録15周年を機会として、訪日外国人の受入態勢を充実させ外国人旅行者の取り込みの強化を引き続き図るとともに、広域連携を活かした取り組みで国内観光市場の需要の掘り起しを図る。</p>	<p>紀北町に観光業で生計を立てている人はどれだけいるのか、また、兼業で観光業をやりたい人もいると思う。</p> <p>観光の目指すべきところ、入込客を増やしたいのか、地域の商品を買ってもらいたいのか、しっかりと基本的な方針を定め、合わせて観光に対する機運がどれだけ高まっているのかという事を掴んだうえで、DMO設立については、検討して欲しいと思う。</p>